

ラオスのこども通信

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

30号
2004年4月発行



特集1 4月は、子どもに教育を約束する月.....2

特集2 ラオスのこども 今.....4

☆活動報告 紙芝居コンクール・指定募金プロジェクト.....6

☆東京事務所から.....8

☆ボランティア掲示板スペシャル.....8

☆ヴィエンチャン事務所から.....10

☆お知らせ ラオス語おもしろ話.....11

☆寄付者・協力者のみなさん.....12



セコンの小学校にて

「ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会」から「ラオスのこども」となって、もうすぐ1年となります。法人発足に当たっては、より多くのボランティアの方の参加を基本にするということから、運営のシステムの柱に「運営会議」を据え、毎月開催してきました。

このボランティアと理事の会議を定期的に開催することで、意思決定の流れに明快さ、活動の多様性が確保されています。

本通信の8ページにありますよう、私たちの活動は、ボランティアの皆さんによって支えられています。活動に関心のあるかた、是非ともご参加下さい。

またホームページでの情報発信にもより力を入れようと考えています。新しい情報をごらんになりますので、是非とも一度アクセスしてみてください。

● ホームページのアドレスが <http://deknoylao.org> になりました。
(→クリック募金にご協力ください！
くわしくは11ページを)

● 特定非営利活動法人 ラオスのこどもの英語名称が決まりました。正式名称はAction With Lao Children 略称はDeknoyLao (ラオス語で「ラオスのこども」)

4月は、子どもに教育を約束する月 —世界とラオス、子どもと教育、支援活動

日本では4月は入学シーズンです。世界では、4年前の2000年4月、181か国の代表とユネスコや世界銀行など国際機関がダカール（セネガル）に集まって約束をしました。「2015年までに、誰でもただで学校に行けるようにします」と。

これが守られるようにと、今年の4月も世界のNGOなどが手をつなぎ、グローバル・キャンペーンが行われます。

今回は、世界を見つめた私たちの活動についてお話をします。

■教育の事情

世界には、学校に通うことができない子どもが1億2,000万人くらいいるといわれています。およそ日本の人口と同じ数だけの子どもが、教育を受けることなく大人になっていくのです。

人にとって、社会にとって、教育が大切であることは言うまでもありません。例えば、女子の教育は後まわしにされがちの現状がありますが、女の子の就学率を上げることによって、乳児死亡率は下がることが指摘されています。また、HIV/エイズが深刻な問題となっているアフリカ諸国では、「エイズを防ぐ最良のワクチンは教育」と言われています。

ラオスの就学状況を見ると、小学校には男の子は8割が、女の子は7割くらいが入学しています。想像していたより多いと思う人もいるかもしれません。しかし、途中で行かなくなる子が多く、卒業するまで通うのは6割に満たなく、57%。40人学級なら17人がやめてしまうことになります。

学校に行かない、あるいは途中でやめるのは、いずれの国にも似通った理由があります。

遠い（ラオスでは、低学年向けの分校は近くても、高学年になると遠くなるなど）、という理由の他、従来、よく言われてきたのは、親が家の手伝いをさせ、教育の必要性を理解しないから、といったことです。

それもあるかもしれません、むしろ教育の質（授業の内容）の問題からドロップアウトすることが指摘されています。先生の教える技術が不十分で、教材も揃わず、教科書を暗記させるだけといったように。ラオスでは小学校を出ただけで先生をしている人も少なくありません。先生たちの給与は遅配もめずらしくなく、他の仕事をしながら先生をするのが一般的です。

また、母語が国語と異なる民族の子どもたちに対しても、授業は国語が使われ、先生の言うことが

理解できないなどの問題は多くの国にあり、ラオスも同様です。

■国際社会の約束

国際社会が教育の普及を約束したのは、実は、これが初めてではなく、1990年、タイで開かれた会議で「2000年までに」と宣言しています。当時、東西冷戦が消え去り、途上国への開発援助は、それまでのようないくつかの同盟国との国家建設のためのダム、道路などから、保健衛生や教育など人間に目を向けた社会開発に心が寄せられていましたといふ時代背景もありました。

その約束が果たされずに2000年を迎えてしまい、ダカールで2度目の宣言をしたのです。ダカールでは、2005年までに初等中等教育の男女格差解消ということも誓っています。達成は難しそうです。しかし、努力は続けられています。

日本政府は、こうした約束に対して、学校建設、理数科教育改善などのプロジェクトを進めています。日本のODA（政府開発援助）は今年で50周年を迎え、金額では世界トップクラスを誇っていますが、これまでダムや道路の工事など経済が中心で、教育分野にはあまり力を入れてきませんでした。初等教育などの基礎教育に目を向けるようになったのは、最近のことですし、ほとんどは校舎の建設です。

■NGOの仕事

「日本政府や国際機関の援助で、とても立派な校舎が建った。でも、図書室に入れる本のお金はない。校舎のお金の一部を本に回してもらえば、どんなにいいことか」

ラオスの教育関係者から、こんな嘆きを聞かされます。私たちは本の要請に可能な限り応えていきます。

1990年代は、私たち「ラオスのこども」（当時：

ラオスの子どもに絵本を送る会)は、ラオスの小学校に図書を普及する読書推進活動と子ども文化センターを立ち上げ、軌道に乗せようとしていた時期です。それが10年の試行錯誤を経て、新たな動きを生んでいます。

その一つが、これまで報告してきた、2002年末から開始したJICA(国際協力機構)との連携事業です。私たちの経験とODA資金が結びつき、普及が図られていくというものです。

もう一つの例は、シータン先生の家庭文庫です。学校に図書箱・袋が配付され、子どもたちを引きつける本の力に驚き、自身も読み聞かせを楽しむようになったシータン先生は、自宅でさやかな文庫を開きました。すると、その文庫が、今度はオーストラリア政府の目に止まり、先ごろ図書室をつくる資金を得たのです。

小学校に図書を配付するねらいは、当初、習った文字を忘れないため、でした。実際には、そればかりか、読み聞かせなどを通じて、学校の雰囲気を明るく、楽しくする効果をもたらすことがわかつたのです。カギとなったのは、先生への研修と本の補充です。

NGOは経験を普及させることで、教育の国際約束の実現に貢献していくことができます。

■教育協力NGOネットワークの仕事

「ラオスのこども」は、二十数団体が加わっている教育協力NGOネットワーク(JNNE)に参加しています。JNNEでは、世界の誰もが教育を受けられ、それが質のよいものとなるよう、政策提言やキャンペーン活動などを行っています。

政策提言は、途上国に対する日本の援助が、より困難な状況にある国や地域、人々に向けられること、建物中心でなくすること、援助を受ける側の主体性を尊重したものとすることなどを盛り込んでいます。

また、「世界中の子どもたちに教育を」キャンペーンとして、4月19～25日にグローバルアクションウイークを設け、日本の高校生たちとともに、日本の教育を見つめながら、政府が国際約束を守るように働きかける子どもロビー活動を行っています。

このようにして、ラオス、世界、日本をつないで、教育の問題に取り組んでいます。(森透)

<ラオス、タイ、日本、データ比較>

データは大まかな目安と考えてください。調査の仕方でも大きく違ってきます。例えば小学校での在学率は、ラオス教育省は35% (1993～1998年)としています。識字率は、名前が書けるか否かで判断される場合もあります。人口統計は、多様な民族構成のラオスで、どこまで正確かという疑問もあります。

日本のデータも同様。就学率は、不登校が増える中、果たしてこの数字でいいのか。成人の識字率は、外国人、日系人が増え、日本語の非識字者も増えていると思われます。

	ラオス	タイ	日本
5歳未満児死亡率*a (2000年)	105人	29人	4人
初等教育純就学率*b (1995～99年) 男	80%	82%	100% x
初等教育純就学率*b (1995～99年) 女	72%	79%	100% x
小学校での在学率*c (1995～99年)	57%	97%	100% x
中等学校総就学率 (1995～97年) 男	34%	38% x	99% x
中等学校総就学率 (1995～97年) 女	23%	37% x	100% x
成人の総識字率 (2000年) 男	74%	97%	-
成人の総識字率 (2000年) 女	50%	94%	-
1,000人当たりテレビの普及 (1997年)	10台	254台	686台
総人口 (2000年)	528万人	6280万人	1億2,700万人
妊娠婦死亡率報告値*d (1985～99年)	650人	44人	8人
1人当たり国民総所得 (2000年)	\$290	\$2,010	\$34,210
ODA／GNP*e (1999年)	20%	1%	-

a：出生1,000人当たりの死亡数

b：小学校に行くべき年齢の子どものうち、実際に行っている子の割合

c：小学校の第1学年に入学した生徒が第5学年に在学する率

d：出生10万人当たり妊娠関連の原因で死亡する女性の年間人数。報告漏れは考慮されていない

e：外国政府などからの援助資金が、国民総生産に占める割合

x：データが標準的な定義によらない、見出しが期間外、国内の一部地域など

-：データなし

出典：unicef
『世界子供白書2002』

ラオスのこども 今

昨年の師走、駆け足で、ラオスの中西部にあるサイヤブリとルアンパバーンの子ども文化センター（CCC）を訪ねてきました。現在、皆で話しあっている2004-0006中期計画に、現場の意見を反映させるためです。

木材の伐採などで豊かなサイヤブリは、メコン川の左岸にあり、タイと国境を接しているサイヤブリ県の県庁所在地です。昨年の初夏からやっと電気が一日中使えるようになり、なんと冷たいビールが飲めるようになっていました。

ルアンパバーンは、ご存じユネスコ世界遺産に指定されている、旧王都。半年ぶりの訪問でしたが、春先のSARSの影響が収まり、観光客が戻りはじめ、ドンドン町が変わっています。しゃれた外国人向けのレストランがならび、かなりおいしいコーヒーを飲ませるコーヒーショップもできていました。

このように町が活性化し、にぎわいが増しているのですが、私たちにとっての関心事である子どもたちの環境は、単純に、好転しているとは言えそうもありません。

■土埃のパラボラ

ルアンパバーンからサイヤブリに車で向かう途中、土埃の街道沿いに、新しい電柱が続き、電線がめぐらされているのに気づきました。村落はところどころに現れます。注意してみると、電気を引いているのは10軒に1軒程度。やっと電気が村の上を通過するようになつても、自分の家に引ける人はまだ少ないのです。そしてそれらの家には、直径が2m近くもありそうな、大きな黒いパラボラアンテナが空をにらんでいます。学校すら充分に整備されていない村落で、タイ語、英語、中国語などの衛星放送が飛び込んでくる時代となったのです（ラオス語放送ではありません）。電気を引ける家、引けない家、外部の情報に接することができる家、できない家。格差がはつきりと目に見える形となっていました。

また、古い村落の間に、何だか妙に新しく貧弱な村が現れます。より奥に住んでいた少数民族の

人々が、政府の指導で低地に降りてつくった村落のようです。それらの村落は規模も小さく、土地も充分でないようです。古い村落とは、明らかに違いがありました。彼らが安定した生活を営んでいくに足りる、耕作地はあるのでしょうか？

■エアロビクス

サイヤブリの子ども文化センターは、子どもたちで溢れています。何年か前、もともと平屋建てだった建物を、スペース確保のため高床！に改造（エイヤッと建物をそのまま持ち上げた）。できた下のピロティでは、お絵かき教室が開かれています。また、日曜日のまだ寒い朝早く、40名ほどの子どもたちが集まり、スタッフのリードで、アメリカの音楽に合わせ「エアロビクス」をおこなっていました。大人気のプログラムです。テンポのあるリズムに合わせて体を動かすという訓練がない子どもたちが、とても楽しそうに、嬉々として踊っています。これはタイの保健省が全国で展開しているプロジェクトの影響です。

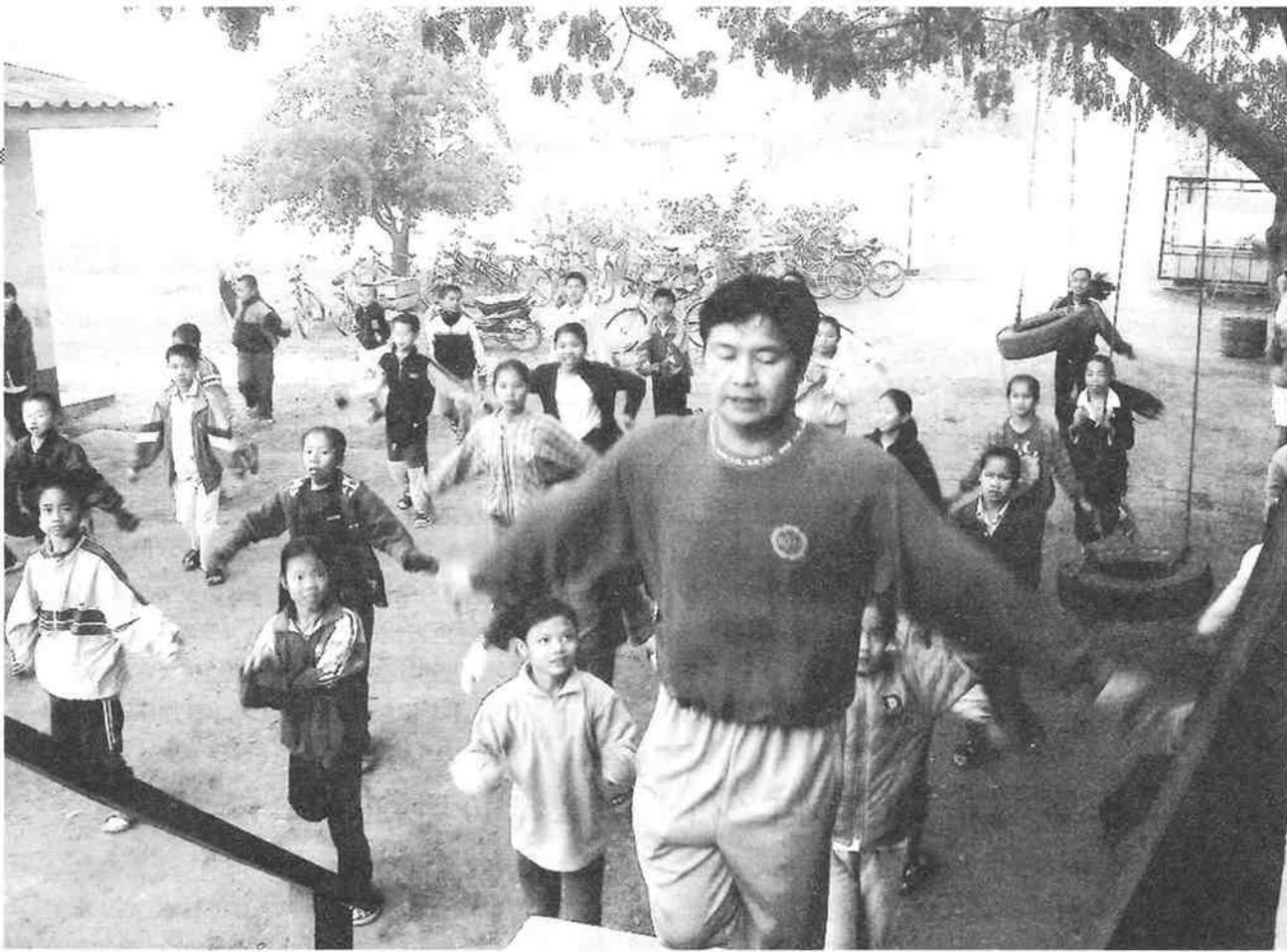
館長、スタッフたちとの話し合いで、今のサイヤブリ県の子どもたちの問題は、少数民族の教育問題。特に女子の中退者が多いこと。また、高校の卒業生1,700名中、上の専門学校や大学に行けるのは400名ほどで、他の子どもたちには行き場がないことが大きい。学校を出ても自分たちを生かす場所がなく、さらに自らを向上させる場がない、というのです。そこで、彼らの希望は、職業訓練の場が欲しいというところに集約します。

■問題のある子ども

ルアンパバーンでも、話し合いをしました。そこで出されたのは、社会的に問題がある子どもの増加



サイヤブリ子ども文化センターのこども



サイヤブリ子ども文化センターでのエアロビクス

です。子ども文化センターに来る子どもは、いわゆる「よい子」。それに対し、薬物やシンナーなどを常習する問題のある子ども、ただプラプラたむろする子どもたちが、ルアンパバーンでは増えてきているということです。これは最近の傾向です。サイヤブリではこのような子どもたちは、まだいません。ルアンパバーンには多くの若い外国人観光客?が流れ込んで、町を闊歩します。また親の生活に余裕がなく、充分に子どもに関心を寄せることができない結果なのかも知れません。

学校へ行かない缶拾いの子どもたちは、今の子ども文化センターには入ってきません。目には見えない垣根があるのです。このような子どもたちのための居場所作りが、必要な時に来ているのでは

ないかというのが、ルアンパバーンでの話し合いの結論でした。スポーツ、遊びなどを切り口に、自己開発につながるような施設がイメージです。

サイヤブリとルアンパバーン。街の性格、規模が違うことから、子どもたちの問題もハッキリと異なってきました。ただ一つ、皆の意見で共通していたことは、もっと子どもたちの体を動かす活動に力を入れようということです。これまでのCCC活動は、読書を軸とするという考え方から、少し文化的活動に比重が置かれすぎていたのかも知れません。もっと体を使い、遊びを大切にし、毎日の「楽しさ」を実感する活動の展開は、今後のテーマになりそうです。（野口朝夫）

ラオスの若者

私は、現在、ラオスの首都ビエンチャンの街中の語学学校で日本語教師をしています。

私はラオスの伝統衣装、シンにとても興味があって、大好きなのですが、若者の間でのシン離れがとても気になっています。最近、タイや中国から来た、既製服の店が街中に急に増え、どこの店も若者で賑わっています。遊びに行く際はみんなジーンズなどをはき、プライベートの場で自分から好んでシンをはいている人は本当に少ないようです。

それでも、20歳以上の子達は仕事や結婚式などオフィシャルな場では身に付けているため、

みんな自分たちの伝統衣装に誇りを持っているようで、授業中での「シンは好きですか?」という質問では、みんなが「好きです」と答えますし、どういうシンが好きか、などという話題でもよく盛り上がります。

しかし、それが高校生、中学生と若くなっていくにつれて、どんどん興味が薄れしていくのがよくわかります。「好きじゃありませんからはできません」という答えが返ってくる時もあります。

ラオスの素敵な伝統文化のひとつであるシンがこれから、ラオスの若い人たちにどのように受け継がれていくのでしょうか。（黒古真由）

紙芝居コンクール

「第4回手づくり紙芝居コンクール」に、ラオスから27作品応募したところ、一般の部とジュニアの部でそれぞれ1作品が、優秀賞を受賞しました。

ラオスから同コンクールへの応募は3回目。

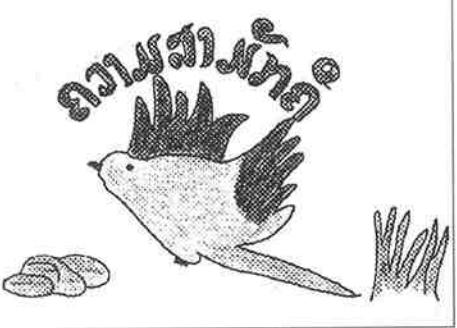
2作品が同時に入賞したのは初めてのことです。審査員や実演審査の観客からは、ラオスの作品は生命力にあふれ、五感を刺激するようなものが多いといい好評でした。

ジュニアの部優秀賞の『力

を合わせて』は12歳のセンダーラーさんの作品。講評では「ラオス民話の豊かな文化性を感じさせる造形美と色づかいで、ストーリーにも好感。わかりやすいテーマ、紙芝居としての展開もしっかりといてすばらしい作品」ということで、「童心社賞」も同時に受賞しました。

一般の部優秀賞の『ペーン君の牛たち』の作者トンミーさんは、昨年に引き続いての入賞。「牛を描く個性的な視点に感心」「のびやかなタッチに魅力」「色の使い方が新鮮」「ラオスの自然の中での、人と動物とゆったりした共生のくらしが伝わる」との評価をいただきました。（赤井朱子）

『力を合わせて』



指定募金プロジェクト (2002年10月-2004年1月)

チラシなどでご案内している「指定募金」に、たくさんのご支援をいただき、ありがとうございます。これまでのご支援により以下のようにプロジェクトを実施することができました。

指定募金の募集状況

プロジェクト	のべ口数	寄付者・団体数
絵本印刷	165	27
図書補充・図書袋	6	3
学校図書室	12	6
子ども文化センター	19	10
運営支援	4	2

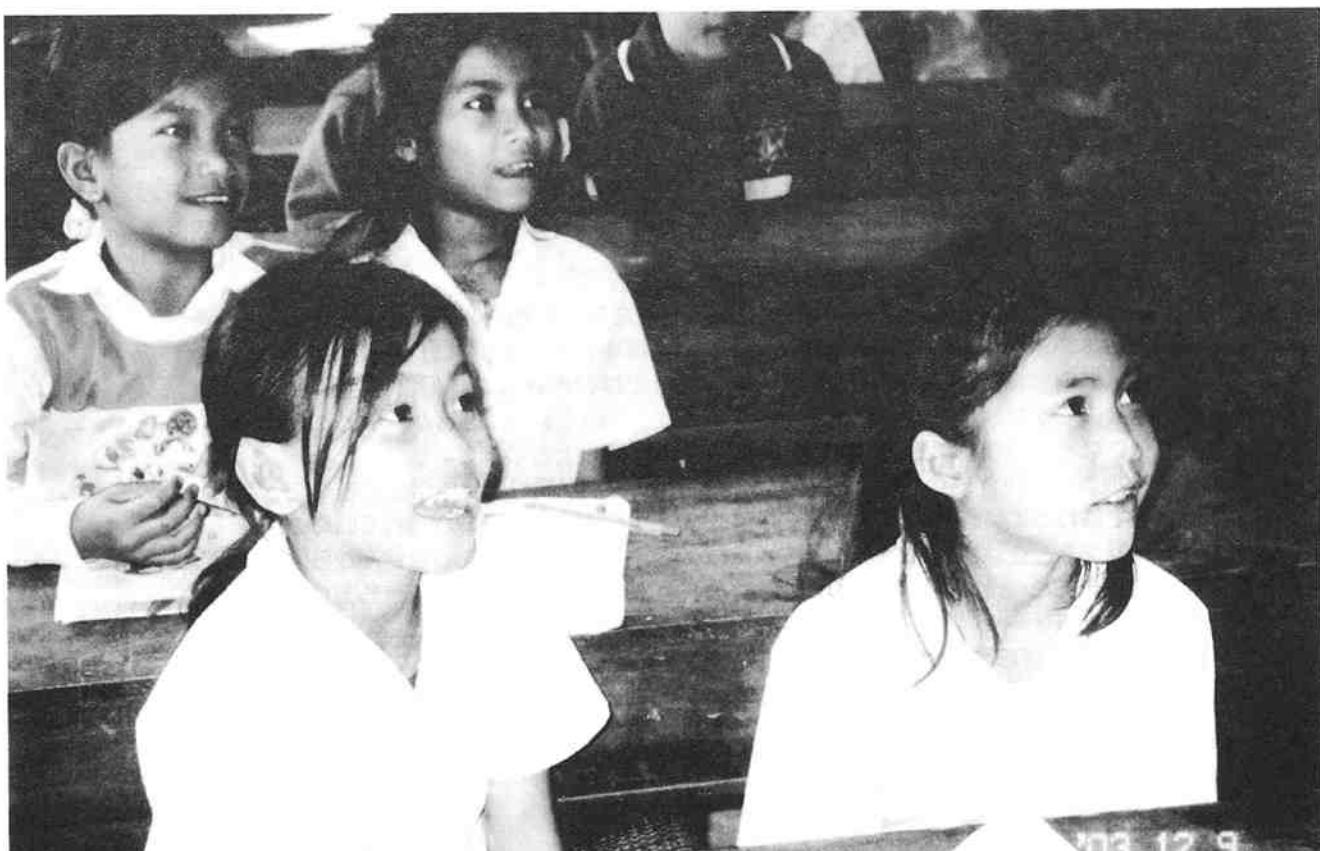
◆ 絵本印刷 1口1,500円

募金総額 249,260円

約1,650冊分の印刷費用に

当会では、図書を出版する際、印刷単価や配付の効率を考え、1タイトル3,000冊以上で出版するようにしています。多くの方々にご協力いただいた「絵本印刷」ですが、まだ3,000冊分に達していませんので、引き続き募集させていただきます。出版する本を選ぶ際は、ラオスの民話や世界の伝記、ラオス語辞書、環境について考える絵本など、子どもたちの世界が広がるよう、多彩な内容を選ぶようにしています。出版まであと135口、

セコンの小学校の様子



ご支援よろしくお願ひいたします。

◆ 図書袋 1口15,000円

図書補充 1口20,000円

募金総額 合計95,000円

図書セットを教員養成校8校に配付

全国8ヶ所の教員養成校での、読書推進カリキュラムの教材となる、図書セットを配付しました。教員養成校の学生たちは、図書の管理や本の読み聞かせなどを学びますが、子どものころに読書の経験がほとんどありません。教員となる学生たちは、たくさんの本に触れ、読書の楽しさを体験し、将来、子どもたちに本の楽しさを伝えられるようになって欲しいと思い、幼児向けから大人向けまで、多様な種類の図書を配付しました。

◆ 学校図書室（ハクアン）小学校開設コース

1口150,000円

募金総額1,000,000円

11校で開設、全国合計100ヶ所に

5ヶ所の小学校、6ヶ所の中学校で図書室を開設することが出来ました。図書室の開設にあたっては、国立図書館と当会現地スタッフが指導に行き、学校の先生や生徒達と一緒に作業を行います。開設式には村人にも参加してもらい、地域での理解や利用につながるようにしています。開設した図書室は、年1回の図書補充をはじめ、必要に応じてフォローアップをしてゆきます。

学校名（所在地） 寄付者名（敬称略）

木アイホン小(VTE都) 故 関山弥寿子
ノーンハイ小(VTE都) ベルマーク教育助成財団
シムマノ小(VTE県) 三井住友銀行
ボーンナムホーン中高(VTE県) 三井住友銀行
サティットカーンカイ小(XKW県) 三井住友銀行
チョムトーン中(XKW県) ベルマーク教育助成財団
アッサイヤポン中(XYB県) ベルマーク教育助成財団
ムサンヴァ中高(XYB県) ベルマーク教育助成財団
ムアンエート小(HP県) ベルマーク教育助成財団
ルアンパバーン少数民族学校(LPB県) 村井浩
セコン少数民族学校(SK県) 豊島福祉基金

中高=中学高校一貫校（6年制）VTE=ヴィエンチャン、XKW=シェンクワン、XYB=サイヤブリ、HP=ホアパン、LPB=ルアンパバーン、SK=セコン
このほか、現在開設準備中が3ヶ所あり、6月までに開設予定です。

◆ 子ども文化センター（CCC） 1口12,000円

募金総額233,000円

のべ20講座、3ヶ月分の運営を支援

ニュースレター29号の「CCCキャンペーン」へ、多くのご協力をいただきありがとうございました。今回のご支援により、のべ20講座を週1回3ヶ月間続けることができます。当会が運営を支援している6ヶ所のCCCで実施している、絵画、工作、演劇、音楽、スポーツなど、子どもたちが毎週末楽しみにしている講座を継続することができました。（支援講座名については、募金頂いた皆様それぞれにご報告を同封しております。）

◆ 運営支援 1口5,000円

募金総額 22,000円

プロジェクトの実施に不可欠な、東京事務所とヴィエンチャン事務所の運営経費に使わせていただいております。活動を続けるために必要な経費を直接支援し「縁の下の力持ち」となって下さった皆様にあらためて御礼申し上げます。

* * * * *

◆ 指定募金がリニューアル

ご寄付内容を指定いただくことで、より直接的にみなさまのご意思をラオスでの活動に反映すべく開始した「指定募金」。
もっと多くの皆様に、親しみを持ってご参加いただけるよう、各メニューの名称を新しくしました。少しでも現地の様子を感じていただけるよう、内容も充実させております。詳しくは同封のチラシをご覧ください。
今後ともより一層のご支援をよろしくお願いいたします。

旧名称 → 新名称

◆ 「絵本印刷」 →

「もっともっと絵本募金」

◆ 「図書補充」 →

「絵本の宅配便募金」

◆ 「学校図書室」 →

「本のある学校募金」

◆ 「子ども文化センター」 →

「子どもの未来募金」

◆ 「運営支援」 →

「スタッフサポート募金」

* * * * *

ボランティア掲示板

東京事務所から

東京事務所の動き

- 11/1 活動説明会
11/7 J A N I C 正会員団体の集い
11/9 平間信恵さん「ラオスのこどもは今」報告会
11月運営会議
11/15～16 大田区・O T A ふれあいフェスタ出展
11/16 子育ち学リサーチネット・子育ち学全フォーラム出展
11/21 大田区国際ボランティア貯金推進協力会・総会
11/22 11月理事会
富士ゼロックス端数値楽部・「国際ボランティアセミナー」野口講演（→右に記事）
11/23 紙芝居文化推進協議会・「手づくり紙芝居コンクール」表彰式（→6Pに記事）
11/27 (社)日本フィランソロピー協会・フィランソロピー・サミット2003（→右に記事）

12/9 恵泉女学園同窓会でチャンタソン講演
12/14 12月運営会議
久留雅美さん「南」の子ども支援N G O能力強化5ヶ月年計画プログラム・ラオスインター報告会
12/17 中央区ボランティア入門講座・国際協力への「いっぽ」

1/9 開発パートナー事業・第2四半期活動報告会
1/11 臨時理事会・1月運営会議
1/17～18 札幌「N G Oとこんにちは！N G O屋台村」出展（→右に記事）
1/24 1月理事会

国内活動のお誘い

●ボランティア活動日

毎週土曜日（但し、毎月第2週目をのぞく）午後は、ボランティア活動日。事務局の業務を手伝ってくださる方、イベントの準備に気合いを入れる方など、さまざまです。お気軽にご参加ください。

●活動説明会

ボランティア活動日と合わせて、奇数月第1週目の土曜日の午後、初めての方に、当会の活動・ボランティア内容をご紹介しています。くわしくは、事務局までお問い合わせください。

●運営会議

毎月第2週目の日曜日午後1時～5時に、活動会員、ボランティア、理事会、事務局のメンバーが集まり、ラオスと東京での活動と運営について話し合っています。あなたも、ぜひ加わってみませんか？

富士ゼロックスセミナー

11月22日に富士ゼロックス「端数値楽部」主催の「アジアの教育に関する国際ボランティアセミナー」に赤坂ツインタワーまで山本功子さんとボランティアしてきました。事務局長の野口さんが「ラオスのこども」の活動報告をし、私たちは、展示品と販売品のセッティングとラオス小物やバナナチップ、コーヒーなどの販売を担当。

野口さんがパワーポイントによるプレゼンテーションの途中で、図書袋を実演。リュック状態の袋を背負ったままひもを解き、広げて見せました。会場からざわめきがもれて野口さん、ちょっと得意顔。

続いて、山本さんがラオスの紙芝居を実演。演目は「魚の恩返し」。ただ時間の都合で残念ながら3、4枚でおしまい。それでもやはり、動きのある展示物はインパクトが並ではないように感じます。

参加者の皆さんには、発表後、パネルなどを見ながら、本や小物を買ってくださいます。バナナチップは、完売。その中で、先ほど実演した紙芝居が気になるのか、実演の続きを山本さんがねだられています。私も、皆さんにパネルの説明や、図書袋の解説などを対応していましたが、フッと気が付くと、隣で山本さんが再び「魚の恩返し」を上演中。これから発表・説明会では紙芝居の演技力！！が必要かもしれません。（清水宏子）

フィランソロピー・サミット2003

「優勝はラオスのこども！！・・・やっぱり子供とママには勝てませんでしたね（笑）。」

この言葉で幕を閉じた第5回N G O・N P O フィランソロピー・サミット。会の皆で勝ち得たということが何よりも嬉しく、また、自分自身が「ラオスのこども」の一員であることに誇りをもてた瞬間でした。

丸ビルでのサミットでのプレゼンは、3分間という短い時間のため、インパクトが大事。塩谷さんの傑作ピーノイのお面、久留さんの力作Tシャツを手に、私たち4人はいざ決戦の大舞台へ！はじめにボランティアに扮する小川さんが登場。しかし、音楽が鳴らないというハプニング発生！動搖しましたが、続いてピーノイこと細谷君、ラオスの子供こと脇田君の踊りながらのおちやめな登場。そして風邪でへらへらのラオスの学校の先生こと私。小川さんの掛け声と共に背負っていた図書袋を開いた途端、会場から「おお」。拍手喝采を背に壇上からおり、すがすがしい達成感と確かな手ごたえを味わうことができました。また、今回のサミットを通じて、普段ちよっぴり怖いと思っていた小川さんのすてきな優しさに触れることが出来たことの収穫の1つかな、なんて。（ごめんなさーい。）（浅生侑子）

スペシャル

いつもは1ページの「ボランティア掲示板」が今回は1.5ページの拡大版。
ボランティアの皆さんのお見事な活躍ぶりをご覧あれ。

ラオス・ヴィエンチャン旅行

ボランティアの清水さん、仁茂田さん、山本さんと共に、ラオスの首都ヴィエンチャンを訪れました。12月30日から1月5日まで、スタッフの赤井さんや留学生の野田さんの案内で、観光・食事・買い物を楽しんだり、ヴィエンチャン事務所スタッフの新年会に呼んで頂いたり、活動の様子を見学したりの一週間でした。

私だけは初めてのビエンチャンでしたが、乾季で過ごしやすく、おいしいレストランやカフェがあり、まるでリゾートにいるような気分でした。

1月2日にヴィエンチャン市内のノーンハイ小学校でハクアン（学校図書室）89の開設式に立ち会いました。お正月休みを返上してたくさんの生徒が校庭に集まっていました。

開設式が始まる前にスタッフが本を机に積み上げると、生徒が「待っていました」とばかりに自分の座る場所を持って行き、読みふけっていました。その熱心なこと…。

日本の支援者の方々のお名前が入ったハクアンのプレートを掲げた後に、式典がスタートしました。私は促されて来賓席



に着席しましたが、おこがましいようにも思われ、ちょっと場違いな感じがしました。

続いてみんなで図書カード入れを作って巻末に貼り付けたり、本を棚に並べたりしました。日本人ボランティアが図書カード入れの量産体制に入ると、一緒に作っていた女の子三人はそろってやめてしまい、カードを差し込むための袋ができるのを隣で待っています。本を並べながら早速読み出している男の子たちもいます。

地域のみんなが待っていたハクアンの開設式…とても楽しい時を過ごし、貴重な機会に立ち会えたものだと思います。

この他にもノーンボトーン・ヌア小学校とノーンボトーン中学校で大盛況のハクアンを見学したり、スワンモン小学校にあるシーサタナークCCCで子どもたちとサッカーに興じる、熱血漢のセンケオ先生に会ったりしました。実際の活動の状況をこの目で見られたのは、とてもためになりました。（塩谷 光）

札幌・NGOとこんなにちは！ NGO屋台村

1月17、18日に北海道・札幌市の生涯学習センター「ちえりあ」で行われた「NGOとこんなにちは！ NGO屋台村」に参加してきました。

17日の早朝、羽田空港を発つてお昼過ぎには新千歳空港に到着しました。その後すぐ会場にバスで移動したのですが、空は快晴で外に見える雪景色は本当に真っ白で大変綺麗でした。1週間程前には現地では大雪とニュースで報道されていましたが、当日はさほど雪は降らず、天候は恵まれました。

自分は来場者に対して会の活動内容の説明をするのが主な仕事でした。来場者の反応はそれぞれまちまちでしたが、特に留学生のモイ君の説明は大変丁寧で多くの方が熱心に耳を傾けていました。流暢な日本語のために彼がラオス人だと知るとたいていの方が驚いていました。また札幌聖心女子学院の学生さんに対して絵本のラオス語翻訳貼りの体験イベントを行いましたが、ここでも場を和やかにする彼の活躍がひと

きわ光っていました。うらやましいぜっ！！（笑）

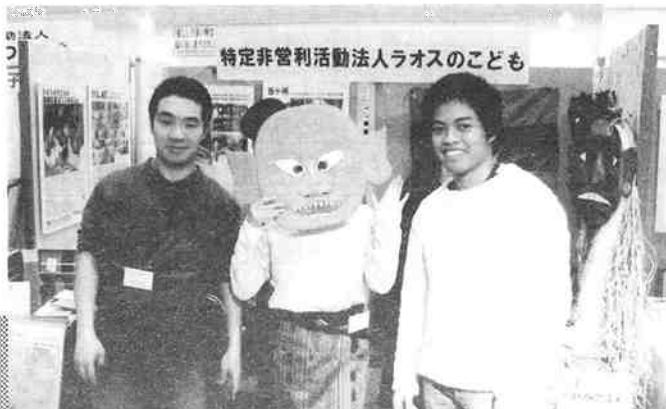
1日目終了後は「ちえりあ」内にあるレストランで参加団体の交流会があり、他団体の方たちと一緒に料理とお酒で盛り上がりました。

8時過ぎにホテルに移動したのですが、せっかく札幌に来たのだからということで時計台を見に行き、さらにもう一度飲み直そうと閉店時間30分前の居酒屋に入りました。そしてメンバー全員の念願であった蟹を注文しようとしたのですが、調理に時間がかかるとのことであえなく断念してしまいました。

2日目、ホテルで朝食をとった後、再び会場に向かいました。2日目は交替で長めの休憩時間をとり観光する時間にあてました。（もちろん残るメンバーは来場者に対して活動内容の説明や小物の販売を行いました。）塩谷さん・清水さんはタクシーで山に登り、藤沢さんは大通公園に散歩しに行き、自分は寿司を食べに行きました。

この日も多くの来場者がみられました。特に印象に残っているのはあるお年寄りの女性で、「私にも何かできないでしょうか？」と訊かれたので「絵本2000冊運動」等の紹介をしました。しかし会の事務所が東京にしかないため地方の方で気持ちのある方が積極的に参加できる良い方法があつたらなとも思いました。

こうして北海道の素晴らしい雪景色や新鮮な海の幸も楽しめた今回のボランティア小旅行が終わりました。（脇田俊文）



ヴィエンチャン事務所から



ヴィエンチャン事務所の動き

- 11/6～9 ボーケオ県読書環境調査、図書配付
(150校)とセミナー
- 11/17～21 ヴィエンチャン都モニタリング調査、図書配付(91校)とセミナー
- 11/21～23 ジャパンウイーク物産展に出席
- 11/24 ハクアン94(ヴィエンチャン県Boun Nam Hon小)開設
- 12/8～11 ルアンナムターTTTセミナー(324名)
- 12/8～13 カンムワン県読書環境調査、図書配付(80校)とセミナー
- 12/8～11 チャンパサック県パクセーTTTセミナー(377名)
- 12/15～18 シェンクアン県カンカイTTTセミナー(351名)
ルアンパバーンTTTセミナー(491名)
- 12/16～19 サワンナケートTTTセミナー(436名)
- 12/19 ハクアン90(ルアンパバーン県少数民族学校)開設
ハクアン95(シェンクアン県Sa Thit Khang Knay小)開設
- 12/20 ハクアン98(シェンクアン県Chom Thog中)開設
- 12/22～25 ヴィエンチャン都ドンカムサンTTTセミナー(348名)
- 12/22～25 サラワンTTTセミナー(284名)
- 12/22 ハクアン92(サイヤブリ県Meuang Va中高)開設
- 12/23 ハクアン91(サイヤブリ県Atxay Ya Phoum中)開設
- 12/24 ハクアン99(サイヤブリ県Ek Ka Phap中)開設
- 12/25 ヴィエンチャン事務所改修工事開始
- 1/2 ハクアン89(ヴィエンチャン都Nong Hay小)開設
- 1/5 ハクアン100(ヴィエンチャン県Bankeun中高)開設
- 12/28～30 ヴィエンチャン県図書配付(109校)とセミナー
- 1/20～23 チャンパサック県モニタリング調査、図書配付(44校)とセミナー
- 1/26～29 子ども文化センターフェスティバル
- 1/26 NGO支援無償資金協力「ヴィエンチャン都教育局教育活動開発センター建設事業」調印式
- 1/28～29 ヴィエンチャン県モニタリング調査
(→右に記事「ラオス便り」)

●図書配付とセミナー：学校の先生に、会場に集まってもらい、図書箱1箱(絵本約140冊入)あるいは図書袋2袋(1袋は絵本約70冊入)を手渡します。その時に、図書の管理、本の読み聞かせなど、読書推進活動について、2～3日間の研修を行います。

●教員養成学校セミナー(TTC)：将来の先生を養成する学校で、最終学年の学生たちに、図書の管理と読書推進活動について4日にわたって研修を行います。

●ハクアン：ラオス語で“愛読”、学校図書室の愛称です。空き教室などを利用し、図書や本棚、机を設置して開設します。

■ラオス便り■

一年後の図書室

昨年2月、ヴィエンチャン県ケオウドム郡ポーンカム小学校

を、図書箱を配付する直前に訪問した時の衝撃的な事件。

図書箱を置く予定の部屋は確保していましたが、教科書や以前に配付した図書数十冊が段ボールに乱雑に詰め込まれている状態。学習机の引き出しにも会が以前配った本が押し込まれていたので、スタッフのボーケオが取り出そうと、本をうんと引っぱった瞬間、キャーンと大きな悲鳴をあげて飛びのきました。床には散乱した本と・・・何と子ネズミが1匹横たわっていました！引き出しと本の間に睡っていたらしいのです。唚然とする我々を横目でみながら、先生は平然と子ネズミを片付けていました。

そんなネズミ事件が強烈に残っているので、1年後はどうなっているだろうと、期待半分・不安半分で図書室に入って行くと・・・な、な、何と、これがあのネズミ部屋か、と思うほどきれいになっていました！親たち手作りの本棚が2つ、どの棚にも本がきれいに整頓して並べてあり、たくさん読まれた本はきちんとテープで補修してありました。図書箱は補修用具や記録ノートなどの保管箱に使っています。本棚に入りきれない本や手作りの紙芝居は、机の引き出し、じゃなくて上に並べて置いてありました。部屋の壁には利用規則、麻薬撲滅のポスターや子どもたちの絵が掛けられて、明るい雰囲気。これではネズミの居場所もありません。よく住宅リフォームで改装前と改装後の写真を並べていますが、ちょうどあのようないじめで、その変身ぶりに感動してしまいました。同行したスタッフの中で、昨年の様子を知っているのは私だけだったので、昨年の写真を見せると、全員驚いて、こんなにきれいになつてうれしい、を連発。これを聞いて先生方も気をよくしたのか？手作りの紙芝居を見せてくれたり、家でお昼ごはんを食べて学校に戻ってきた子どもたちを集めて、校庭で活動を披露してくれたりしました。

まずは、5年生が紙芝居を披露してくれました。シータン先生の文庫(ハクアン87)に通っている子どもたちは紙芝居も上手。時々先生が「次は何がでてくるかな～？」とフォロー。答えを唱和する子どもたち。続いて、先生の昔話が始まるときも、子どもたちはじっと先生の方を向いて、どきどきしながら聞いています。最後に併設の幼稚園の子どもたちも加わって、みんなで歌と遊戯を披露。この幼稚園児たちの振りがノリノリで全然照れることなく、小学生のお兄さん・お姉さんたちを完全に食っていました。大人達もそれを見て爆笑しながら拍手喝采していました。

本が来ただけで、こんなに学校の雰囲気が変わるものなんだ、と全員幸せな気分で次の学校へと向かいました。

(ヴィエンチャン事務所駐在 近藤知子)

お知らせ

サバイディー・ピーマイ・パーティー

日時：4月24日（土）15:00～18:00（会場14:30～）

場所：大田区ライフコミュニティ西馬込（2F）

参加費：一般4,000円 大学・高校生2,500円 中学生1,000円

小学生500円

*前日と当日のボランティアを募集しています。

*ラオスの衣装、織物、手工芸品の販売も行います。

ラオスのお正月パーティーも今年で22年目になります。今年は日曜日ではなく、土曜日に行います。また、会場はライフコミュニティ西馬込になり、例年と違う趣向でみなさまをお迎えいたします。もちろん恒例の伝統儀式バーシーや10種類以上の本格ラオス料理などもお楽しみいただけます。くわしくは、同封のチラシをご覧ください。みなさまのお越しをお待ちしております。

新しい「絵本2000冊」

日本語の絵本にラオス語を貼って送る「絵本2000冊運動」が、「私の絵本ラオスのこどもへ～ラオス語絵本プロジェクト」に変わります。ラオスへ送られた絵本が累計2000冊を越えたため、新しいスタートをきることになりました。新しい呼び方は、活動会員やボランティアが参加する運営会議（2月）で話し合い、その後当会のメーリングリストで広範に呼びかけ投票をつのり、2月の理事会で決定しました。

新しいスタートにあたり、内容をより一層充実させていきます。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。



ラオス便り（左ページ）
2003年2月
ポンカム小図書室



2004年1月
ポンカム小図書室

ラオス語 おもしろ話

留学生のヴィエンシーさんからラオス語
を教わっていて、出会った、ちょっとおもしろいお話し

② トイレに立つ人へ、贈る言葉



クリック募金にご協力を

株式会社ディ・エフ・エフが運営するクリック募金のホームページ (<http://www.dff.jp/>) で、「ラオスのこども」の紹介が5月より始まります。紹介期間は3ヶ月の予定です。

クリック募金とは、クリック募金サイト上の募金ボタンをクリックするだけで、無料で、募金ができる仕組みです。スポンサー企業（味の素株式会社）が代わりに実際のご寄付をしてくださるので、クリックをした人には一切お金がかかりません。

1クリックあたりの募金額は1円で、1人1日、1クリックまでとなっております。ぜひとも当会のラオスでの教育支援活動にクリックをお願いいたします。

会員制度について

活動会員 定款に定める会の活動目的に賛同し、積極的に活動に参加していただける方なら、どなたでも活動会員に登録することができます。活動会員は、年1回の総会で議決権があります。ボランティア保険加入費と通信費として、年会費1,500円を頂きます。くわしくは、事務局まで入会申込書をご請求ください。

賛助会員 賛助会員に会費はありません。ご寄付、ボランティアなど、何らかの形でご協力くださった方が賛助会員です。郵便振込でご寄付の際に、賛助会員として登録させていただきます。登録を希望されない方は、郵便振込用紙の指定の場所にチェックを入れてください。また、郵便振込という形以外でのご協力者の方の中で、賛助会員登録をご希望の方は、事務局まで入会申込書をご請求ください。